

令和7年度 瑞浪市総合教育会議 会議録

(要点筆記)

日 時 令和8年1月22日(木) 14時30分開会
場 所 市役所 4階全員協議会室

出席者 (構成員)

市 長	水 野 光 二
教育長	伊 藤 慶 和
教育長職務代理者	羽 柴 誠
教育委員	柴 田 洋 子
教育委員	小 倉 望
教育委員	可 児 恵 太

(事務局)

みずなみ未来部長	正 木 英 二
事務局長兼学校教育課長	廣 瀬 浩一郎
みずなみ未来部次長兼生涯学習課長	加 藤 百合子
スポーツ文化課長	水 野 義 康
企画政策課長	工 藤 雄 一
教育総務課長	梅 村 やよい
教育総務課課長補佐兼総務係長	山 崎 美 和

説 明 者	学校教育課	小 山 智 哉
	生涯学習課	清 水 芳 樹

傍 聴 者 なし

報道関係者 なし

次 第

- 1 市長あいさつ
- 2 教育長あいさつ
- 3 協議・報告事項
 - ① 瑞浪市のコミュニティ・スクール、地域学校協働活動について
 - ② 瑞浪市の部活動地域展開について
 - ③ 瑞浪市のＩＣＴ教育の充実と今後の展開について
 - ④ 陶小学校及び釜戸小学校の複式学級について
 - ⑤ 瑞浪市の不登校の現状について
 - ⑥ 瑞浪市のいじめの現状について
- 4 その他

1 市長あいさつ

令和8年も順調にスタートしており、仕事始め式、二十歳の祝典、出初式など、市の大きな1月の行事は順調に開催できました。

特に二十歳の祝典は、実行委員の13名が本当に一生懸命、いろいろ創意工夫をしていただいて、例年以上のすばらしい二十歳の祝典を開催していただけたと思います。順調に瑞浪で生まれ育った子どもたちが、しっかり二十歳を迎えて、立派な式典がやれるということは、今までの瑞浪の教育、青少年育成も含めて、順調に対応することができると感じました。

今日は、関心のあるような協議報告事項がたくさんあると思います。事務局から説明させていただきますので、ぜひ教育委員の皆さんの忌憚のないご意見をいただいて、さらに、瑞浪市の教育環境を向上できればと思っていますので、よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ

この総合教育会議は、市長と正式に意見交換ができる貴重な場ととらえていますので、忌憚のないご意見を出していただいて、教育をよりよい方向に歩みを進めていきたいと考えています。

この教育については、瑞浪教育は幸せ実感都市瑞浪を実現していく土台になる大事なものと捉えています。一人一人が大切にされる瑞浪教育、たくましく生き抜く子どもを育てる瑞浪教育を進めていきたいと思っています。

令和7年度に複式学級が釜戸小学校と陶小学校に初めてできましたが、順調に教育が展開されています。子どもも保護者もアンケートの結果が大変よかったということで、多くの人数で学び合える、多くの人数で遊ぶことができることについて、非常に楽しく感じていると学校から報告を受けています。

令和8年度の複式学級は釜戸小学校が3、4年生ということで、学年が一つずつ上がります。陶小学校がもう一つ増え、2、3年生と4、5年生ということで、2クラスになります。日吉町が3、4年生で1人減ると、複式学級になるという状態ですが、どちらにしても、私たち教育委員会としては、小規模でも中規模でも大規模でも一人一人の子どもたちに、質の高い教育をしっかりと届けたいと思って、教員の質の向上も含めて進めているところです。

本日はですね、瑞浪教育は瑞浪の市政とともにあるというふうに考えておりますので、ぜひ、様々な視点からご意見を頂いて、さらに教育の向上を進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

3 協議・報告事項

○事務局長

これより本日の協議・報告事項に移ります。

○市長

これより議長を務めます。

①瑞浪市のコミュニティ・スクール、地域学校協働活動について…資料No. 1

○事務局（生涯学習課）

協議・報告事項①について、資料により説明

○羽柴委員

アサギマダラ取組は、子どもも大人もワクワクする取り組みで発展性もあり、学校だけではきっとできなかったと思いますので、コミュニティ・スクールとしてのアイデアが素晴らしいと感じました。ぜひ他地区にも宣伝してほしいと思いました。逆に、多くの人が協力をしてくれたものが草刈り、草とりで残念でした。コミュニティ・スクールがそれで終わってはいけない、年に何回も草刈りをやっているだけでは発展性やワクワクさがないので、もっと効率的に1回で済めばいいと思います。瑞浪南中学校で、器具を使っている例があるので、陶小学校でも実践して、うまくできれば他の学校にも勧めたいと思いました。

また、学校運営協議会と地域学校協働本部のメンバーが地域によっては似ています。同じ日に開催なら効率がいいですが、法律的に問題はないのでしょうか。

○事務局

法的には問題なく、地域によって同じ日に開催しているところもあります。

○可児委員

支援員をさらに補助するような形、あるいは主要科目で先生方が1人だけよりも、こういう方が授業に混ざってくれた方がいいというような教育現場でのニーズが今あるとしたら、コミュニティ・スクールの地域学校協働本部から、こういう授業にこういう人材を募集しているみたいな感じで発信して、地域に広く人材を求めるようなことは可能でしょうか。結果的に普段仕事しとるけど、この授業がこういう場面だったら協力できるみたいな形で、多世代に関わることに繋がると思います。

○事務局

これまでの地域産業などについて勉強するときに地域の方に協力をいただくこともあり、先生方もそういった専門性を求められる場面がありますので、今後も地域の人たちと相談しながら、どんどん活用できるようにしていきたいと思います。

○市長

地域の方を講師に迎えて、話を聞く時間はありますか。

○教育長

あります。今もほとんどの学校で行っています。

○市長

歴史やその地域の文化、昔の遊びや料理などを体験することは、地域の方に来ていただかないとできませんが、経済や金融、政治などの科目があってもいいと思います。

○教育長

いろんな学校で、のこぎりの使い方や、ミシンや針の使い方などの技能系で、地域の方が入って教えてもらっています。大変感謝しています。

○市長

地域の企業の皆さんは、会社だけで事業をしていればいいという時代ではなく、地域貢献ということで、地域や子どもたちのためになる活動を望んでみえる企業もありますので、うまくコラボできると、生きた勉強に繋がると思います。

○柴田委員

周辺地域は、子どもたちを地域の宝として大切に育ててくださっているとよく感じています。中心地域では人数も多く、コミュニティ・スクールのあり方が違う気がします。今日、瑞浪小学校にもこのような活動があることも知りましたが、やはり、周辺地域と中心地域では違うのではないですか。

○事務局

地区によって、人数の多さや校区の広さが違いますので、その中で、関われる方々で意見を出し合って意見交流がされています。大きい学校ならではすることも考えていきたいと思っています。

○小倉委員

瑞浪北中学校の先生方に地域の事を学んでもらったことはいいことだと思います。まちづくりの会議に出席しても瑞浪市にはいろんな所に歴史深いものが残っていて、大事にしていかなければいけないという話がよく出ます。他の地区でも、先生方に学んでいただくと子どもたちに説明もしやすいし、もっと瑞浪を大事にできる気がするのです、他の地区でも実施してほしいと思います。

○市長

活動に必要な物品等の要望とは具体的に聞いていますか。

○事務局

学校整備に来てくださった方へのお茶代やポスター作製費などです。

地域にばらつきはありますが、令和8年度の予算に、令和6年度の実績を基に活動時のお茶代等を要望しています。今後は、消耗品や備品などについても必要に応じて要望していきたいと考えています。

○市長

これから本格的にコミュニティ・スクールの活動を行っていく中で、具体的に欲しい物が出てきた場合には、考えていかなければいけないと思います。

②瑞浪市の部活動地域展開について…資料No. 2

○事務局（スポーツ文化課）

協議・報告事項②について、資料により説明

○羽柴委員

「参加を希望する中学生は、在学する中学校に関わらず、いずれの地域クラブにも自由に参加することができる。」について、趣旨は分かりますが、交通手段がなく、送迎できない家庭の子は我慢することになります。体験格差と体力格差が家庭状況で決められてきてしまっています。移動手段についての記載をお願いしたい。

○事務局

移動手段については、交付金制度を設ける予定でいますので、各クラブの判断にはなりますが、交付金を活用し、各クラブで送迎をお願いしたいと考えています。

経済的に苦しい家庭への支援を国も考えているところですので、まだ、対象等は明確になっていませんが、注視しながら、どのように活用できるか検討していきます。

③瑞浪市のICT教育の充実と今後の展開について…資料No. 3

○事務局（スポーツ文化課）

協議・報告事項③について、資料により説明

○小倉委員

タブレットを使いこなすことはとてもいいことですが、目の疲れを心配しています。

○事務局

健康調査の結果からも視力については課題となっています。目の疲れについては学校も把握していますので、時間制限や、道具として必要な時に使うようにしています。

○市長

学校の方でしっかり指導してください。

○柴田委員

タブレットを使うと書く力がなくなると聞きましたが、大丈夫ですか。

○教育長

校長会や教頭会でも話をしていますが「書くことで思考力が高まる」「書くことで記憶する」ということが大事ですので、文房具の一つとしてタブレットを使うわけですが、最終的な自分の考えは、自分の手で書いてまとめることなどをして、書くことを大事にしていきたいと考えています。

○可児委員

タブレットを使った授業はとても優良なもので、文房具として使っていくことはいいと思います。

情報モラル意識について、学校を離れ、自宅にある端末使って悪いことをして、学校の生活にも悪影響が出るのではないかという、現場の不安感があると思います。そこについては、完全に機械やソフトを使って安全が担保できるような世界にはまだなっていません。どうしても一歩踏みとどまって、「こんなことを軽はずみにしてはいけない」などということ子どもと家庭でやることが大事、学校だけでやることに限界があると思います。デジタルシティズンシップの考え方について、地域や家庭でできるようなものを市として広げていくといいと思います。

○市長

青少年育成市民会議などでも、講師を呼んで講演会でインターネットの問題について勉強会の開催や注意喚起をしていただいています。全ての親が参加されているわけではなく、そこに参加した人たちは、危険性を実感して子どもに対応すると思いますが、そういう機会にも参加しない多くの方が、子どもたちにどう接しているか心配です。

「インターネットで知り合った人のやりとりがある」というのは、学校としていいのですか。

○事務局

今は、SNSで繋がれてしまうので、保護者がどこまで見届けているかというのは非常に心配ところです。実際、生徒指導事案として問題になることはあります。

○教育長

ルールなどをできる限り早く学校を通してしっかりしていかなければならない、ほっとくことができないことです。

○市長

小学生ぐらいになると大人以上に使いこなしてしまう子もいるので、最初の段階から危うさを教えておかないといけない。これからも大きな課題となっていくと思われます。

④陶小学校及び釜戸小学校の複式学級について…資料No. 4

○事務局（学校教育課）

報告事項④について、資料により説明

○羽柴委員

陶小学校の複式学級ができたわけですが、子どもたちや親から、「力が付かない」や「楽しくない」という話を聞いたことがないので、いいスタートではないかと思います。

釜戸小学校の算数で、2年生の長さや3年生の重さのところを一緒にやったっていう授業は、複式だったからこそ考え方が深まる素敵な授業だと思います。

○市長

先生方も大変だと思いますが、メリットもたくさんあると思いますし、経験豊富な先生を派遣していただいて、デメリットを補いながら、メリットが出るような教育をしてほしいと思います。

引き続きしっかり見守っていきたいと思います。

③瑞浪市の不登校の現状について…資料No. 5

○事務局（学校教育課）

報告事項⑤について、資料により説明

○可児委員

現場で担当される先生や、スクールカウンセラーの人手は足りていますか。

○事務局

不登校というのは職員だけで対応しきれないところがあったりします。学校に来る時間がまちまちであったり、来てからなかなか教室には入れない子だったり、を大事にしたい。居場所をつくりたいと思ったときに、今は、空き時間を何とか細工したり、校長教頭も入って対応したりする中で、苦しい状況もあります。市の支援員を配置しながら、そういった子と関係づくりをしながら安心できる居場所であったり、いずれは学級であったり、学習に向かえるような状況というのをいろんな手を使いながら進めているところです。

○市長

支援員の先生の資格は必要ですか。

○事務局

授業をするわけではないので、教員資格は必要ありません。

しっかり面接をして、そういう教育相談に対応できるような力があるかどうか判断

します。

○市長

資格がなくても探すことは大変ですか。

○事務局

やってくれる方がいるので、予算をいただければ配置できると思います。

○可児委員

プライバシーの問題などではありますが、専門の資格が必須でないということであれば、コミュニティ・スクールを通じて地域方に協力してもらったり、最近市内で行われている子ども食堂などを通じて居場所づくりから始めてあげたりと、地域に受皿になりうる団体や制度ができてきていると思いますので、活用できたらいいと感じました。

○教育長

本当に不登校になるかならないかのぎりぎりの子どもたちを助けるのは校内教育支援センターで、学校に逃げ場所があるということです。「そこに行くと必ず誰かがいて自分の話を聞いてくれる」、それが次のステップのエネルギーになると思いますので、校内教育支援センターの充実は大事だと思っています。

○市長

家庭の不安定が不登校につながっていると思います。

今、家庭訪問はしていますか。

○教育長

していません。

○市長

先生方に家庭の現状を見てもらう機会だと思いますが、家庭訪問はしない方針ですか。

○教育長

行って状況を見るということは、学校としては、子どもたちの指導に役立ちますが、好まない家庭が多くあり、プライバシーを尊重するということから、遠ざかってきています。

○柴田委員

不登校の子が卒業した後はどうしていますか。

○事務局

今は多岐に渡りいろいろな学校がありますので、進路業務をする中で、保護者の希望をお聞きして、相談して、一緒に探したり、考えたりしています。

通信制の学校が多く、不登校傾向のお子さんの中には通信制の学校に進むお子さんが多数いることが予想できます。

○市長

中学校も不登校をサポートする学校がありますか。

○教育長

瑞浪市の中にはありませんが、今度新しくできる中京中学校も不登校生徒へのサポート体制を検討されているそうです。

岐阜市に、登校時間も自由、帰宅時間も自由という形で、自分に合ったカリキュラムで勉強するという草潤中学校があります。

⑥瑞浪市のいじめの現状について…資料No.6

○事務局（学校教育課）

報告事項⑥について、資料により説明

○羽柴委員

「いじめられた児童生徒の相談の状況」で「学級担任」が 78 人と圧倒的に多いことはありがたいと思いました。

「PCや携帯等で、誹謗・中傷で嫌なことをされる」は本当に2人なのか疑問に思います。数字だけで安心せず、子どもの様子をしっかりと見てほしいと思います。

○可児委員

調査結果について、いじめの認知件数が、昨年度同時期と比べて減少しているが、高い水準であるという点は、良いことだと思います。法律が規定するいじめの定義が、非常にハードルが低いからです。被害者側が、嫌だと感じて訴え、それでも法律上はいじめに該当します。加害者側で特に意識なくても、被害者側が嫌だと思って、嫌ですと言え、それで法律上はいじめに該当しますので、たくさん認知されるのは、素晴らしいことだと思います。

あとはその中で、個々のいじめに対して、どういう措置をしてあげられるのか、適切に対応してあげることが大事だと思います。

積極的な措置を双方にすべきいじめもあれば、それをいじめとして取り扱ってしまうことが不適切なものまで幅広くあると思います。現場で先生方が子どもたちと向き合っていく中で、迷わないようにしてあげられる、学校内外を含めた相談連絡できる仕組みづくりが必要だと思います。

○教育長

いじめを受けた子どもがSOSを出せる、SOSの出し方を学ばせることがとても大事だと思っています。出し方を知らないがために、自分で抱えてしまうがために深くまで落ちてしまうことがあります。「SOSの出し方研修」を各学校で、きちんと充実させないといけないと思っています。

○事務局

いじめは、集団の中での集団意識により、当初は傍観者であったものが次第に一緒になっていじめてしまう傾向もあります。そのため、集団の中で子どもたちを指導する際には、自分でどのように判断し、どう行動するべきかについて、具体的なケースを想定させながら一緒に考え、指導を行っていきます。このように未然防止を図るとともに、子どもたちの心を育てる取組を一層推進していきたいと考えています。

4 その他

○可児委員

昨年のこの会議でお願いした、小中学校体育館の空調設備について、今後何年間に渡りエアコン設置及び気密性向上等の対策を取っていただけると資料等を拝見しました。このような会議の場での意見が、子どもたちのよりよい学校生活や地域の方の避難所として使える空間の設立に繋がったことをうれしく思います。また、このような会議をきっかけに、前向きにご検討いただき、深く感謝します。

○市長

少し時間かかりますが、計画的に大規模改修に合わせ、まずは、避難所として、また、子どもたちが多いところ、避難される方が多いところを優先して設置していきますので、よろしくお願いします。

○小倉委員

旧日吉小学校の跡地の計画がありますか。

○教育長

バスを待っている子どもたちの待機場所、放課後集まって勉強する場所としての活用などを考えています。

○事務局

スポーツ文化課の化石の資料や寄贈を受けた絵などがたくさんあり、なかなか収蔵する場所がないので、その空き教室を借りて、少し倉庫にさせていただくように調整を教育委員会としているところです。

1 6 時 1 5 分 終了